



地産地消推進条例

皆様お元気ですか？

今年のお正月休みはいかがでしたでしょうか？

私は、毎年元旦に母校希望ヶ丘高校の同窓生が宮司を務めている川井宿町の八幡神社と下川井町の三嶋神社へ初詣に行き、2日と3日は西横浜駅周辺へ箱根駅伝の応援に行きます。今年も同じパターンでした。

ところで、今年は特に、新年早々嬉しいことが二つありました。元旦のFMヨコハマ「モーニングステップス」で私のコメントが読まれたことと尊敬する経営コンサルタントの小宮一慶さんから私のFacebookの投稿に「いいね」をいただいたことです。今年は縁起がいいと思っています(笑)。

さて、今年最初の古川なおきレポートは昨年12月26日の横浜市会本会議で可決された「横浜市の都市農業における地産地消推進条例」についてです。この条例は、約4年前の選挙で約束した8つの条例の一つで、横浜の都市農業の振興と地産地消を進めるために自民党市議団が作成した条例です。この条例で、約束した8つの条例の内の6本目が成立しました。

○横浜の農業

横浜では都市化が進んでいて、農業は地方の農村での主要産業と思われていますが、市内の農家は4千戸、市域面積の約7%は農地です。農業産出額は約100億円で小松菜やカリフラワー、キャベツ、ほうれん草、枝豆などは収穫量が全国的に上位に入ります。小松菜などは出荷量が全国で一番の時もありました。私の事務所のスタッフ・塚本勇太君も旭区の農家の方に協力いただき、地元で採れた野菜を地元の皆様に食べていただこうと「きぼうがおかマルシェ」を昨年は2回開催して好評でした。その他、野菜や果物、牛や豚なども地元横浜でほとんどの農畜産物をいただくことができ、神奈川県内でも横浜は農業が盛んです。



←希望ヶ丘マルシェの様子

○地産地消のメリット

やはり野菜は、新鮮な方が、栄養価も高く美味しいです。地産地消で作った農家の方の顔もわかり安心して食べることができます。私たちは、世界各地から何でも手に入れることができるようになりましたが、地元で収穫した物を地元でいただくことは輸送費もかからず、環境にもやさしいと言えます。

地産地消で私が個人的に好きな所は、旭区役所すぐ近くの二宮いちご園さんです！いちごは子どもが大好きなので、家族でも楽しめます。二宮さんのいちごは高級フランス料理店でも使用されています。その料理店の一つが弥生台駅前のフレンチ「ペタル ドゥ サクラ」です。難波シェフが腕をふるい、地元の食材にこだわり、美味しい地元の野菜やお肉を使用しています。難波シェフは自ら畑に出向き季節の美味しい野菜を吟味します。地産地消にこだわる「濱の料理人」を代表する人でもあります。そして、南万騎が原駅前の「ハマっ子」や都岡にある「メルカート」などJAが運営するお店では、四季を通じて新鮮な野菜、果物、花などを手にすることができます！地産地消に興味のある方は、季刊誌「横浜」や「食べる横浜」(神奈川新聞社)なども是非お読み下さい！

○6次産業化

生産(1次産業)と加工(2次産業)と販売(3次産業)を一体として行う6次産業化は、政府の成長戦略の一つでもあります。横浜で採れた農畜産物の6次産業化やブランド化も条例の中に盛り込みました。既に横浜市内の野菜や果物を使用したジャムなど好評を得ています。「横浜の〇〇」といった商品は売りやすいので、企業にも魅力的なようです。旭区でも地元で採れたお芋を使用してブランド化させた焼酎「一里山」が人気です。横浜市は観光政策にも力を入れていますので、地元産の観光土産が増えれば、全国に横浜の魅力を発信することにつながります。

私は、8月31日(野菜の日)に生まれたこともあり、野菜が大好きです。居酒屋で2～3人前のサラダも普通にいただきます。今回の条例制定を期に、地元旭区の野菜をさらにたくさん食べて、今後とも地産地消に力を入れてまいりたいと思います(笑)！

寒い日が続いておりますが、地元の野菜を食べてお元気に過ごしてください！

横浜市議員 古川なおき

！おイモ掘りのお手伝い



古川なおき
プロフィール

県立希望ヶ丘高校・明治大学 卒業/明治大学公共政策大学院 修了
横浜銀行勤務後、衆議院議員秘書
平成7年4月 横浜市議員初当選(26才最年少)
現在 平成26年 こども青少年・教育委員会副委員長
健康づくり・スポーツ推進特別委員会
自民党横浜市議員団所属/横浜市民FCキャプテン
希望ヶ丘高校同窓会桜蔭会理事/横浜スキー協会会長
旭区サッカー協会顧問/旭区スポーツダンス協会顧問
旭区卓球協会顧問/旭区食品衛生協会顧問

横浜ブランドの野菜や果物は全30品目



はま菜ちゃん

横浜生まれの野菜や果物の中から、「新鮮・おいしさ」「高品質」「安定供給」などをキーワードにして生産者・流通業者・消費者等の代表者で構成する「横浜ブランド農作物育成推進委員会」で選定しました。野菜や果物は新鮮なほどおいしく、含まれる栄養素も失われません。横浜で取れた野菜や果物だから、新鮮でおいしく食べていただけます。

【はま菜ちゃん 野菜26品目・果物4品目】

いんげん 旬の時期 6月上旬～7月下旬	うど 旬の時期 3月中旬～4月下旬	えだまめ 旬の時期 6月上旬～7月下旬	かぶ 旬の時期 11月上旬～5月下旬	カリフラワー 旬の時期 5月上旬～7月中旬 10月上旬～12月下旬	キャベツ 旬の時期 10月上旬～11月下旬	きゅうり 旬の時期 6月上旬～7月下旬	こまつな 旬の時期 年間を通して	ごぼう 旬の時期 10月上旬～12月下旬	さつまいも 旬の時期 9月上旬～11月下旬
さといも 旬の時期 11月上旬～12月下旬	じゃがいも 旬の時期 6月上旬～7月下旬	しゅんぎく 旬の時期 10月上旬～2月下旬	だいこん 旬の時期 3月中旬～5月下旬 11月上旬～12月下旬	たまねぎ 旬の時期 6月上旬～7月下旬	つげな類 旬の時期 11月上旬～1月下旬	とうもろこし 旬の時期 6月中旬～8月中旬	トマト 旬の時期 6月上旬～7月下旬	なす 旬の時期 7月上旬～10月下旬	にんじん 旬の時期 11月上旬～2月下旬
ねぎ 旬の時期 11月上旬～4月下旬	はくさい 旬の時期 11月上旬～2月下旬	フロccoli 旬の時期 5月上旬～5月下旬 11月上旬～2月下旬	ほうれんそう 旬の時期 11月上旬～4月下旬	みずな 旬の時期 11月上旬～1月下旬	レタス 旬の時期 11月上旬～1月下旬	ウメ 旬の時期 5月上旬～6月下旬	カキ 旬の時期 10月上旬～11月下旬	ナシ 旬の時期 8月上旬～9月中旬	ブドウ 旬の時期 7月下旬～8月下旬

★地域のお悩み解決隊★政務調査員・塚本☆による報告

File4 政策コンテストに出場し、優勝！

今号では1面にて古川なおきが地産地消について書かせていただきましたので、私も関連して寄稿したいと思います。

今年度、自由民主党では全国政策プレゼンコンテストが開催され、昨年末までに39の都道府県にて政策の公募と予選会が行なわれおり、私も出場しました。そして、神奈川県大会にて優勝いたしました！決勝大会は今年開催の予定なのですが、このときに発表したテーマが「大都市圏における地産地消の推進」についてでした。

私は千葉県の出身で、恥ずかしながら現在の仕事をするまで横浜では農業はほとんど行なわれていないと思っていたのですが、実際には四季を通じて様々な花きや野菜が栽培されており、小松菜やキャベツなどは全国の市町村別生産高でもトップ10に入るほど盛んに栽培されています。しかし、横浜のような都市部においては地方の農家に比べ戸当たりの耕地面積が狭く、面積当たりの生産コストも高い傾向にあります。さらに都市部ゆえの高い相続税などは、都市農業を難しくしている一因といえます。

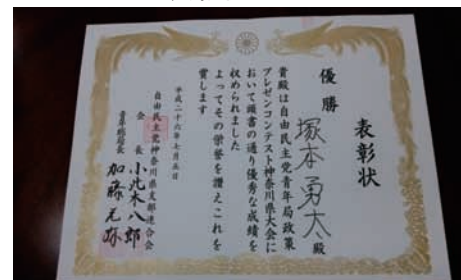
一方、都市部ならではの利点としては何より生産地と消費地が近いこと、そして消費者も安全で新鮮な野菜を求めているということです。そこで私は、地域の商店街と横浜農家さんの協力を仰ぎ商店街の一角でマルシェという朝市を企画、昨年は7月と12月に開催させていただきました。これは野菜の直売を通して生産者と会話をしながら野菜を購入していただくのはもちろんのこと、地元の野菜を使った料理を商店街店舗が作り、販売することにより、地元の農を体感してもらうというところに重きを置きました。

おかげさまで2回とも大盛況で、思っていた以上に地域の方々が地元の農産品を求めているということが強く感じられました。将来的には近所の料理店で地元の野菜が食べられるようにしたり、週末に身近なところで農業体験ができる場をコーディネートしたり地元のひとと農をつなげる役割を担って行きたいと考えています。古川なおきはもちろんのこと、政務調査員塚本の活動にもご期待ください（笑）！

▼大都市の農業は手作業が多い



▼いただいた表彰状



お気軽にご連絡ください。

FAX: 045-366-9700 / TEL: 391-4000

E-Mail: jm@furukawa2002.com

みなさまのご意見をお待ちしています！

古川なおき政務調査事務所

〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘 199-1
希望ヶ丘駅より徒歩6分

